

委員会名	自己点検者（委員長名）	①当該年度の活動内容の概要 （簡条書きで良く、参考資料は不要）	②委員会内での自己評価と問題点の抽出 （簡条書きで良く、参考資料は不要）	③次年度の改善方策 （簡条書きで良く、参考資料は不要）
予算施設委員会	小笠原裕樹	<p>(1)令和4年度の研究室・実習予算配分及び機器予算・修理予算の配分について協議し承認を得た。</p> <p>(2)令和4年度から「特定共同研究取扱規程」に則り、予算・施設委員会で1件分の予算を措置し、本件について協議、承認した。</p> <p>(3)施設夏期工事予定表に基づき、例年通り7-8月に工事を予定していること、及び工事計画内容が報告された。</p> <p>(4)令和4年度の研究助成金及び科研費獲得褒賞金の配分を、例年通りとすることで、承認した。</p> <p>(5)令和3年度の本委員会で議題となり、課題としていたインパクトファクター傾斜配分の見直しについて協議したが、配分時期等も含め、これまで通りとすることで承認された。</p> <p>(6)令和5年度の予算・施設委員会として概算請求する案件について協議し、令和4年度と同様に4案件(①IF傾斜配分予算②科研費獲得褒賞金並びに恩田剛堂研究助成金③科研費獲得者への間接経費還元④特定共同研究予算)を請求することで承認した。</p> <p>(7)令和5年度の薬科学総合実習演習Ⅰ及びⅡの予算の見直しについて審議し、要望通り増額することを承認した。</p> <p>(8)施設として、令和5年度から開始予定である清瀬キャンパス外壁大規模改修工事の、提案・見積実施要項書が提示、計画予定が報告された。また、電気料金の高騰に伴う報告と 節電の注意喚起が報告された。</p>	<p>(1)本学における研究室・実習予算及び機器予算・修理予算は概ね適切に配分されている。</p> <p>(2)特定共同研究の申請が、予想以上に少なかった。</p> <p>(3)消耗品等の購入時における手書きの調達請求が、業務上煩雑であるため、簡略化できないかとの意見が複数あった。しかし、調達規程と発注権限の点から、直ぐに変更できないことが分かった。</p> <p>(4)IF傾斜配分のあり方については、随時見直しに留意する必要がある。</p> <p>(5)調達請求書の件や、より使いやすい予算の在り方、管理しやすい執行方法など、これまで先送りしてきた課題の解決のため、例年より委員会の開催を増やす方向であることを委員に通知した。</p>	<p>(1)特定共同研究は、その目的として学内の共同研究の活性化及び若手教員の挑戦的な研究を支援するものであることから、来年度以降、申請を促すべくアナウンスに心掛ける。</p> <p>(2)調達請求書については、教員・事務員にとって、共に業務負担が軽減できるような対策を講じるため、調達規程と発注権限の問題をクリアーできる最適な方法の選定に向け、準備に取り組む。</p>